

住所 東京都世田谷区宮坂1-5-30 電話 03-3420-0136 FAX 03-3420-8782  
 URL <https://www.ohyu.jp/> twitter @ohyu\_gakuen、@ohyu\_pepper facebook <https://www.facebook.com/ohyu.jp>  
 帰国生受け入れ開始年度 1986年  
 2019年度帰国生在籍数 中学1年:22人 中学2年:26人 中学3年:24人 高校1年:21人 高校2年:14人 高校3年:23人  
 帰国生のための部署/担当 入試広報部・国際部/教頭 大内まどか先生(m-ohuchi@ohyu.ed.jp)

帰国生入試について					
出願資格・条件	実際に海外に在住していた受験生であれば、「海外在留1年以上、帰国3年以内」の原則から外れている場合でも帰国生として出願できる。その際、12月(難しい場合は1月)に保護者と面談の上、帰国生の事情に応じて入試の点数に加点する。				
出願書類	一般生と同じ。ただし、保護者面談時に海外に滞在していたことを証明できるもの(パスポートや通知表のコピーなど)と海外での生活が分かるもの(写真など)を提出。				
過去3カ年の応募状況		出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
	2019年	54	31	16	14
	2018年	69	48	35	28
	2017年	83	55	32	26
帰国生の編入試験について					
出願資格・条件	編入制度なし				
クラス配置・一般生との位置づけ					
入学後は一般生と同じクラスだが、中学1年生は1クラス30人程度の少人数学級にし、生活面でも、学習面でもきめ細かくフォローしている。また、3日に1回席替えを行い、エンカウンター・プログラム、アサーション・トレーニングを導入することにより、互いに尊重し合い、異なる意見も認め合えるような集団作りに取り組んでいる。入学後、親の転勤に伴い退学する場合は、期限と回数を定めず、いずれの時期にでも再入学できる。海外にいる期間は、退学扱いなので学費はかからない。入学時に中学3年間のシラバスを配布するので、海外でも学校の進度に合わせて自学することが出来る。また、一時帰国の際には、授業見学など希望に応じて対応している。					
帰国生への学習指導					
放課後にネイティブの教員による英会話のクラスを受講できる。英語の授業は中1からAll English。蔵書数1万8千冊の洋書を使った多読・多聴や、様々な分野を題材にしたEssay Writingにも取り組んでいる。その他の教科の補習については、必要に応じて個別対応を行っている。					
入試に向けての事前準備や意識してほしいこと					
学校のホームページに、過去3年分の入試問題を掲載している。また、事前に予約をすれば学校見学が可能である。その際、「一時帰国中の学校訪問」と伝えていただければ、入試問題の解説書(「入試対策資料集」)を渡している。本校の過去問対策に大変役に立つ冊子なので、是非受け取ってほしい。算数は、毎年傾向を変えずに定番の問題を出題しているので、特に過去問対策は有効である。また、理科と社会は、暗記中心の問題ではなく、与えられた資料や図、表、グラフなどを使い、自分の考えを記述する問題が中心である。自分の意見を表現する機会が多い帰国生には、本校の理社は慣れれば取り組みやすい問題である。					
帰国生の卒業後の進路・進学状況について					
全員4年制大学に進学している。帰国生枠の入試を利用する場合もあるが、一般入試での合格が最も多く、AO入試や推薦入試での合格者もいる。慶應、早稲田、国際基督教大学などの難関大学進学者も多いが、国公立大学に合格・進学する生徒も多い。過去2年間の進学状況:東京1、一橋1、東京外語1、北海道1、お茶の水1、横浜国立1、慶應3、早稲田5、上智3、東京理科1、国際基督教1、明治2、立教1、青山学院1、法政1					
留学制度や海外大学進学支援体制について					
1年間の長期留学については、留学直前の成績により、帰国後に元の学年に戻れる「留学扱い」か、帰国後に下の学年に戻る「休学扱い」かに分かれる。長期休暇中以外の短期留学については、欠席時数の規定内であれば可能。韓国のハナ高校と交換留学の制度がある。また、チョート・ローズマリー・ホールのサマースクール派遣、イェール大学研修、チェルトナム・レディース・カレッジ研修、国際シンポジウム参加など数多くの国際理解教育プログラムがある。					
帰国生や海外在住生徒保護者へのメッセージ					
本校は、学力だけでなく、行事やクラブ活動などを通して企画力、運営力などを身につけ、社会の中で自分らしく活躍する女性を育てます。また、理数教育や芸術教育にも力を入れており、ICTの活用も進んでいます。入試では、帰国生は特別枠ではなく、一般入試の中で「帰国生加点制度」により優遇します。4科の学習が必要になりますが、鷗友学園の理科・社会の入学試験は、単に知識を覚えるだけでなく、その場で得た情報と自分の持っている知識とを組み合わせ、自分なりのことばで表現することが求められます。理科・社会にかかる時間がないという場合にも、あきらめず、一般的な読解力、判断力、表現力などで対処してください。4科の合計点に帰国生の加点分を加えて、約6割得点できれば合格できます。多少苦手な教科があっても得意な教科で十分に挽回できますので、がんばってください。					
帰国生対象の英語教室や各種講座について					
英語力を高めるプログラムとして、ネイティブの教員による放課後英会話、Online英会話、Ohyu Debate Workshop、エンパワーメントプログラムがある。					